

氏名	たかやなぎ 高柳 ふくえ
学位の種類	博士（薬学）
学位記番号	甲第 43 号
学位授与の日付	2021 年 3 月 21 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	高尿酸血症・痛風を含む生活習慣病の食事療法に向けたプリン体定量と食事性酸負荷の検討
指導教員	教授 金子 希代子
論文審査委員	主査 教授 金子 希代子 副査 教授 細山田 真 副査 教授 出口 芳春 副査 教授 渡邊 真知子 副査 教授 厚味 厳一

論文審査結果の要旨

I. 学位論文審査可否判定理由

学位論文は、第Ⅰ部：発酵食品中の総プリン体および遊離プリン体の測定、第Ⅱ部：治療食の食事性酸負荷およびプリン体量の算出と尿 pH の検討、の 2 部構成で作成されている。

第Ⅰ部では、発酵食品を対象としたプリン体の定量結果から、高尿酸血症の食事療法として、ヒポキサンチン類を低減する発酵食品の利用が勧められることを、データを示しながら論述している。発酵食品中の微生物の関与（特に酵素との関連）を追記する、データを表のみでなくグラフでも示す等、副査の先生からの指摘を受けて、さらに意義のある学位論文に仕上がることが期待される。

第Ⅱ部では、大学院臨床薬学履修コース「病院実務研修Ⅰ」として実施した臨床研究について記載している。ここでは、入院患者に提供される治療中の酸の指標として PRAL 値と NEAP 値、そして独自の数値としてプリン体量を計算して考察している。また糖尿病患者 6 名の尿 pH と治療食との関連も検討した。対象患者、エンドポイントとした尿 pH について指摘もあったが、小数例での結果を服用している薬物の影響も含めていねいに考察している。

以上の理由と副査の先生方からの判断を総合して、学位論文を合格と判断する。

II. 最終試験（学位論文に関連する専門的知識, 理解力等）可否判定理由

最終試験は、2020 年 12 月 18 日の口述発表会と 2021 年 1 月 19 日の主査 1 名、副査 4 名による口述試験により、実施された。口述発表会（発表 20 分、討論 15 分）においては、高柳は発表時間を守り、発酵食品におけるプリン体の移行や治療食による尿 pH を測定した臨床研究について、適確な質疑応答を行った。副査 4 名による口述試験（質疑応答 60 分）では、簡単な説明と行うとともに、発酵食品中の微生物、プリン体の測定方法の特長、尿 pH に着目した理由、今後の展開等、詳細な質問に、的確に回答していた。また初めての大学院臨床薬学履修コースとして、臨床研究に取り組んだことを高く評価された。口述発表会、口述試験を通して、高柳は、学位に相当する専門的知識と理解力を有していると考えられる。

以上の理由と副査の先生方からの判断を総合して、最終試験を合格と判断する。